

兵庫県立リハビリテーション中央病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年1月 策定

【兵庫県立リハビリテーション中央病院の基本情報】

医療機関名：兵庫県立リハビリテーション中央病院

開設主体：兵庫県

所在地：神戸市西区曙町1070（総合リハビリテーションセンター内）

許可病床数：520床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期病床100床、回復期病床420床

稼働病床数：330床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期病床100床、回復期病床230床

診療科目：内科、循環器内科、神経内科、整形外科、リウマチ科、小児科、神経小児科、
小児精神科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科
（計 14科目）

職員数：397.1人（H29.12.1現在、非稼働除く常勤換算現員数）

- ・ 医師 33.8人
- ・ 看護職員 182.4人
- ・ 専門職 157.9人（看護補助員、滅菌・清掃員等 無資格者含む）
- ・ 事務職員 23.0人

入院患者の居住地の内訳（年度別実人数による）

	神戸市				東播磨				北播磨	中播磨	県内その他	県外	合計
	垂水区	西区	その他	小計	明石市	加古川市	その他	小計					
平成27年度	143	316	141	600	350	76	65	491	75	48	141	99	1,454
構成率(%)	9.8%	21.7%	9.7%	41.2%	24.1%	5.2%	4.5%	33.8%	5.2%	3.3%	9.7%	6.8%	100.0%
平成28年度	147	350	156	653	372	70	55	497	87	53	106	91	1,487
構成率(%)	9.9%	23.5%	10.5%	43.9%	25.0%	4.7%	3.7%	33.4%	5.9%	3.6%	7.1%	6.1%	100.0%

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

② 構想区域の課題

③ 自施設の現状

④ 自施設の課題

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

兵庫県におけるリハビリテーション医療の中核病院として、地域の医療機関では対応困難な脊髄損傷・四肢切断等の重度障害、高次脳機能障害などに対し、高度・専門的なリハビリ医療やロボットリハビリテーションの臨床応用、国内唯一の「子どもの睡眠と発達医療センター」など先導的なリハビリ医療に取り組むとともに、人工関節手術・脊椎手術等の術前・術後のリハビリテーションにおいても、先進的なリハビリテーション医療を実践する。

また、県立のリハビリテーション病院として担うべき役割等に関して、大学病院と十分に連携しながら、質の高いリハビリテーション医療を提供する。

② 今後持つべき病床機能

- ・ リハビリテーション病院として回復期病棟の充実を図るため、従来の施設基準から、より高い施設基準（回復期リハビリテーション病棟入院料1）を取得し、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、頭部外傷等の運動・感覚障害などの脳血管障害はもちろん、多発性外傷や重複障害などを持つ運動器疾患患者にも対応し、包括的なリハビリテーション医療を提供する。

その他神経難病のリハビリテーション、排尿障害の治療、四肢切断や脊髄損傷の症例への対応、筋電義手やロボットリハビリテーション、高次脳機能障害や嚥下障害への他職種からの取り組みなど、他のリハビリテーション施設では対応し難い高度のリハビリテーション医療を引き続き提供するため、回復期機能を持った病床（230床）を活用していく。

- ・ 当院の手術は、人工関節置換術や脊椎内視鏡下手術等の整形外科手術、排尿障害等の手術が主であるが、施設内にボーンバンクを備え同種骨移植等の手術も行うなど、民間病院では対応困難な手術にも積極的に取り組んでいる。

なお、当院はDPCを導入していないため、術後の長期入院が可能であることから、手術からリハビリテーションまでの一貫した医療を提供できる数少ない医療機関であるという特徴を生かし、急性期病床での手術後のリハビリテーションにも力を注いでいく。

① その他見直すべき点

・ 190床の病床を稼働していない理由

平成20年3月に「県立のじぎく療育センター（220床）」（肢体不自由児施設、病院）の機能が移転されたことに伴い、平成20年4月に小児リハ病棟（30床）を開設したが、残りの病床については、活用手法のほか医師など必要な体制整備や財源の問題もあり、具体化に至っていないため。

・ 今後の見通し

県内のリハビリテーション医療の現状・課題や今後の他の医療機関における提供体制の動向等を踏まえ、県立病院事業の基本計画である病院構造改革推進方策の次期取組期間（H31（2019）～H35（2023））に、活用方策の検討を行い一定の結論を得る予定である。

なお、当該期間に神戸圏域で具体的な医療ニーズが示された際は、返還も含めて検討を行う。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	100床		100床
回復期	230床		230床
慢性期			
(合計)	330床		330床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 集中的な検討を促進 2年間程度で </div>
2018年度			
2019～2020 年度			<div style="display: inline-block; background-color: #f4a460; padding: 10px; margin: 5px;"> 第7期 介護保険 事業計画 </div> <div style="display: inline-block; background-color: #90ee90; padding: 10px; margin: 5px; margin-left: 10px;"> 第7次医療 計画 </div>
2021～2023 年度			<div style="display: inline-block; background-color: #f4a460; padding: 10px; margin: 5px;"> 第8期 介護保険 事業計画 </div>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p>平成32年度目標</p> <p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率：82.0% ・ 紹介率：72.0% ・ 逆紹介率：63.0% <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経常収支比率：102.5% ・ 医業収支比率：93.6% ・ 給与費比率：60.2% ・ 材料費比率：25.1% ・ 経費比率：21.6%
--

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)